

1年生の持ち味に目を向け 新生活への大きな期待に応える指導を

入学直後に合宿などを通して、集団規律や家庭学習の仕方を指導し、中学生としての自覚を持たせようとする学校は多いだろう。初々しい1年生を、「中学生」にするためにどのように指導していけばよいのだろうか。課題と解決のヒントをまとめた。

中学1年生の現状と指導の課題

「VIEW21」読者モニターのアンケートより（2012年11月実施）

中学1年生の「良さ」

- ◎新生活への期待から、気持ちを切り替えているいろいろなことに挑戦しやすい
- ◎小学校からの継続で、グループ学習など活動的な学習に積極的に取り組みやすい
- ◎中学校生活への先入観や固定観念にとらわれずに、新しい取り組みに適応しやすい

中学1年生の課題

- ◎集団の中で相手の立場を考えた発言や責任を持った行動を取れない生徒がいる
- ◎小学校段階の基礎学力が定着していない生徒が目立つ
- ◎規則正しい生活リズムを築けていない
- ◎難しいことや嫌なことがあると、すぐに他人任せになる傾向が見られる

中学1年生への指導の課題

- ◎上級生と比較することで1年生を過小評価してしまい、教師が手を掛け過ぎてしまう
- ◎小学校段階の学習内容の遅れを出来る限り早く取り戻そうと、他教科の宿題の量を考えず、つい多くの課題を与えてしまう
- ◎早く中学生にしたいくて、生徒の実態を十分踏まえずに、規律指導を重視してしまう

中学1年生の良さを伸ばす

中学1年生を伸ばすヒント

理
論
編

○自己有用感を持たせる

小さなことでも褒める、役割を任せて成し遂げさせるなどして、「自分も出来る」と自信につなげる

○集団の良さを体験させる

行事やグループ学習にしっかり取り組ませることで、皆で協力する大切さや、集団の中での自分の居場所が分かる

○憧れとなる目標を提示する

2・3年生とのかかわりを通して、目標を持たせることが、学習や学校生活への動機付けとなる

▶ インタビュー 国立音楽大 新藤久典教授 P.6

実
践
編

小学生の中学校体験授業で支援役「リトルティーチャー」を任せる

- 憧れの存在としての自覚を持たせることで、学習意欲を育む
- 学校外の人との関係構築を通して、対話力や礼儀を身に付けさせる

▶ 学校事例1 大阪府大阪市立淡路中学校 P.10

小学校段階の復習と、学年縦割りで「自主学習ノート」に取り組む

- 学習面での自信を持たせるため、小学校の復習プリントに取り組ませる
- 「自主学習ノート」は3年生を回収役にし、1年生に家庭学習へ意識を向けさせる

▶ 学校事例2 島根県吉賀町立柿木中学校 P.15

1年生の学校行事は、学年生徒会で自ら運営させる

- 多くの生徒に役職を任せ、自立心を育み、他者を認める心も育てる
- リーダー育成と共に、他の生徒にはリーダーを支える重要性を体験させる

▶ 学校事例3 茨城県日立市立多賀中学校 P.20